

災害からわが身を守ることを考える 土砂災害・洪水に備える

今年も、全国各地で大雨が降り避難指示などの情報が出され、多くの人が不安な時間を過ごしています。また、今年7月に発生した静岡県熱海市での土石流災害では、甚大な人的・物的被害が発生しました。

近年は、局地的な豪雨や台風の大型化などもあり、土砂災害や洪水は、「いつ」「どこで」起こるか分かりません。災害に備えて、どのような準備が必要か、災害が起きたときには、どのように行動したらよいかなど、適切な知識を持ち、自分の命は自分で守ることを心掛けましょう。

早めの避難を

土砂災害警戒区域や浸水想定区域に住んでいる人は、その区域の外にある安全な場所へ移動する立ち退き避難（水平避難）が原則です。すでに道路が冠水しているなど、移動に危険が伴う場合には、無理に避難場所まで避難せず、自宅を含めて、がけや沢から少しでも離れた近隣の建物の上階に待避（垂直避難・屋内安全確保）してください。

気象・避難情報の収集

台風や豪雨が予想される時はテレビ（データ放送）やラジオなどからの気象情報や避難情報に注意しましょう。

市では、災害の危険が迫ったときに避難指示などを発令して避難を呼び掛けます。

主な伝達手段は次のとおりです。

緊急速報メール／桐生ふれあいメール／防災ラジオ／防災行政無線／広報車／Ｌアラート（テレビのデータ放送など）／市ホームページ／自治組織／自主防災組織

なおります。

地域の危険箇所や避難場所、避難経路の確認

地域によっては、地震や土砂災害、洪水など、災害の種類によって避難場所が異なります。事前に住んでいる地域の危険箇所や避難場所、避難経路を、実際に歩いて確認しましょう。

市では、避難情報が発令される前であっても、市民の皆さんが、危険を感じた場合に、自主的に避難できるような体制を整えています。（左表参照）

自主避難所指定施設一覧

- ・昭和公民館
- ・南公民館
- ・東公民館
- ・西公民館
- ・北公民館
- ・境野公民館
- ・桜木公民館
- ・広沢公民館
- ・梅田南小学校体育館
- ・相生公民館
- ・川内長寿センター
- ・菱公民館
- ・桜木西公民館
- ・新里支所
- ・黒保根支所

雨量に注意

土砂災害は、雨が原因となつて発生することが多いです。1時間に20ミリメートル以上の強い雨が降ったり、降り始めてからの雨量が100ミリメートルを超えると土砂災害が起こりやすくなると言われています。

土砂災害や洪水は、大雨よりも少し遅れて起こります。また、がけ崩れなどは雨がやんだ後に起こることもありまますので、大雨の後は何日か注意が必要です。

防災情報伝達システムの構築

現在、防災情報伝達システム整備工事を行っており、防災行政無線のデジタル化だけでなく、新たな情報伝達手段として防災アプリなどを導入します。運用開始は来年10月を予定しています。



防災・危機管理課 進藤主査

土砂災害の予兆現象に注意しましょう

警報や避難情報が発令されていなくても、下表のような状況を確認した場合は、適切な避難行動を始めてください。

土石流の予兆現象	<ul style="list-style-type: none"> ・急に川の水が濁り、流木が混じり始める ・雨が降り続けているのに川の水位が下がる ・立ち木が裂ける音や石がぶつかり合う音が聞こえる
地すべりの予兆現象	<ul style="list-style-type: none"> ・地面に亀裂や段差、陥没が発生する ・がけや斜面から水が噴き出す ・井戸や沢の水が濁る ・樹木が傾く
がけ崩れの予兆現象	<ul style="list-style-type: none"> ・がけに割れ目ができる ・がけから小石がパラパラと落ちてくる ・がけから水が湧き出る ・湧水が濁ったり、止まったりする ・地鳴りがする